

広報・教育部門

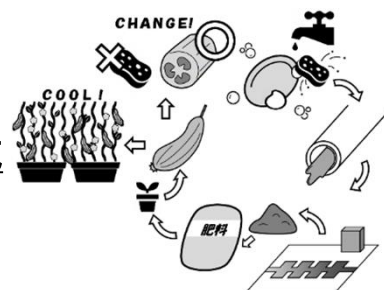
応募事例名

高校生と「下水道のプレゼンス向上」を考える
～ヘチマプロジェクトで学び発信～

応募団体名)岡崎市上下水道局

応募事例の概要

- マイクロプラスチック問題から「下水道・水循環」を学習
- プラスチックタワシの代替として自然由来のヘチマタワシを作成
- ヘチマを育てる過程の仕掛けで下水道とSDGsを意識
- 高校生の柔軟な発想力を生かし下水道について市民に啓発



応募事例の内容



下水道・水循環を学ぶ

- ・授業の実施
- ・下水道肥料の使用
- ・間伐材の使用

SDGsを意識する

- ・マイクロプラスチックの削減
- ・不用品の再利用
- ・緑のカーテンを体感

下水道を啓発する

- ・インターンシップで意識向上
- ・体験型アクティビティを作成
- ・イベントで啓発

PRポイント

ヘチマの育成に浄水場の汚泥や下水汚泥を含む肥料等を使用したり、ヘチマのグリーンカーテンで夏場の教室が少し涼しくなることによるエネルギー削減の体感、ヘチマたわしの作成によりマイクロプラスチック問題に向き合うなど、様々な体験・体感を通し「下水道とSDGs」を意識できる活動となった。

生徒たちが考案した体験学習型アクティビティを使い、生徒自らが下水道の正しい使い方を市民に啓発。下水道のプレゼンス向上に貢献できた。



サービス課主事
藤井 宝

この取り組みで一番心配したことは高校生と仲良く、楽しく活動できるかという事でした。1回目の活動でテンションを上げて接したことで仲良く活動することができました。

ヘチマの栽培を通して、生徒自ら下水道事業の啓発を企画しイベントで実施してくれたことで高校生以外の市民にも積極的に広報することができました。